

会議結果報告書

1 会議の名称

令和6年度第2回光市子ども・子育て審議会

2 開催日時

令和6年9月20日（金）14時00分から15時30分

3 開催場所

光市総合福祉センター あいぱく光 1階 健診ホール

4 出席人数

委員18人中14人出席、事務局11人出席

5 公開・非公開の別

公開

6 会議の議事録（要旨）

（1）開会

（2）会長あいさつ

（3）議事

ア 市子ども計画（仮）へ策定転換について

配布資料1～4で説明

【質疑・意見等（要旨）】

（会長）

これまでの考え方から方向転換するということで事務局からの説明がありました。こどもの対象範囲を広げていこうということや、国県と足並みを揃えていこうという趣旨の方向転換のようですので、事務局にお任せするということによろしいでしょうか。

→異議なし

イ 若者の就労支援について

配布資料3、4で説明

【質疑・意見等（要旨）】

（会長）

若者の就労支援について、委員の皆様からご意見をいただければと存じます。まず、若者の就職を支援する立場から、商工会議所青年部の委員、個人的な見解でも構いませんので、ご意見をいただけますか。

(委員)

我々、商工会議所青年部の取組としては、今年から始まったのですが、就労支援として、地元の企業を若い人に知ってもらうPRフェアをやっています。若い人に光市の企業を知ってもらい、光市で働くという選択をしてもらうという取組をしています。来期からは規模を拡大する予定です。少し話が逸れるかもしれませんが、結婚支援の取組も行っておりまして、婚活フェアを開催する予定でもあり、光市の未来につながるような取組をしていきたいと思っています。

(会長)

ご意見ありがとうございました。続いて、これから就職をしていく立場である大学生の委員から就労支援や雇用対策で重要視してほしいことなど、お伺いできればと思いますが、いかがでしょうか。

(委員)

先日、インターンシップに行かせてもらい、実際に仕事をしてみないと、やりがいがあるか無いか、続くか続かないかというのは分からないと感じました。私は、地元での就職を考えているので、魅力的な地元企業を紹介していただく機会は大事ですし、実際に見て・体験してというのが重要であると考えているので、そういう場があればぜひ出たいと思います。在籍する大学では1年生の時と3年生の時に就労を体験する機会としてインターンシップがあり、就労について考える良い機会なので、企業側のPRする場を積極的に設けてほしいと思いました。

(会長)

ご意見ありがとうございます。それでは、本日ご欠席の前上委員からもご意見をいただいているとのことなので、事務局からお願いします。

(事務局)

事前に聞き取りを行いました内容について、質問形式にてご紹介させていただきます。まず、「就職活動時の情報収集はどこからしているか」については、「大学から情報収集している」とのことでした。続いて、「就職活動をする際に何を重要視しているか」については、「職場の雰囲気、個人のスキルが活かせるかどうか、仕事にやりがいを感じられそうか」の3点のお答えがありました。最後に、「企業に何を求めるか」については、「安定した休暇と収入」とのことでした。

(会長)

ありがとうございました。ただいま、3人の委員の方からご意見をいただきました。それを踏まえても結構ですし、個人的な意見でも結構ですので、若者の就職支援について必要と思うことをお話しいただきたいと思います。

(委員)

教育現場にいた立場としては、こどもたちに様々な取組の情報発信をしていくことが重要であると感じました。

(委員)

小学生や中学生の頃から、実際の職場にて体験や経験をすることが未来の職業選択などにもつながっていくと思います。そういうところが充実したら良いと感じました。

(委員)

商工会議所の取組をお聞きし、大変良いことだと思いました。そういったPRを積極的にしていただければ若い方にも良いと思います。

(委員)

私が仕事を始めたころは、大学の方針に従って、どこに勤めるかを決めていたと思います。最近の若い方は、自分の生活の質や家族などプライベートも考えて職場・職業を選ぶ傾向にあると感じており、時代によって、仕事や就労に対する考え方が変わっているのだと思います。

(委員)

今までは子ども・子育て審議会ということで、18歳までのこどもを対象として色々審議してきました。今回、18歳以上、就労なども対象になるとお聞きして、大事なことであることは理解できるが正直驚いています。今後はこども政策課で30歳くらいまでのこどもの就労支援も踏まえた子育て支援をしていくことでいいのか。

(事務局)

あくまで、就労の支援は経済部の商工振興課が取り組んでいくことになりますが、計画としての進捗管理はこども政策課で行うことになります。

(委員)

就労の支援ということで、直接的に就職の支援をするだけでなく、小学校や中学校において職業の体験などを通じて、自身の夢や目標を養っていくような支援が充実したら良いと思います。また、こども大綱には、「悩みや不安を抱える若者への相談体制の充実」とあり、この部分は今後もっと目を向けていくべきところかと思いました。

(委員)

就労支援というと、対象者がどうしても特定の年齢に偏ってしまうが、保育所、小学校、中学校、高校という育ちの中で、キャリア教育を実施していくことが重要であると感じました。また、対象年齢の拡大や、こどもの貧困を対象にするにあたって、アンケートは実施されたのでしょうか。

(事務局)

貧困についてですが、県が「こどもの貧困に関するアンケート調査」を実施しておりまして、そちらの光市部分の結果等を参考にしながら策定を進めていく予定です。また、若者の部分につきましては、結婚と就労が主となりまして、こちらに関しては、第3次総合計画において、市民アンケートや指標によって達成度を測っているので、そこと整合を取りながら進めていこうと考えているところです。

(委員)

我々は経済団体なので、子育て支援や貧困の観点では見にくいですが、雇用などの観点で

貢献していけたらなと思っております。

(委員)

支援の対象が 18 歳から概ね 30 歳に拡大していくというところで、戸惑っている部分もありますが、適応していかなければならないと思っていますところ。

(委員)

新採用の保育士を見ていて、働くことに対する意識等は変わってきたと感じます。接し方についても、私たち中堅以上の職員についてもアップデートしないといけないと感じています。

(委員)

小学校は中学校に入れるのが目的ではなく、こどもたちが社会に出て貢献していくためにどんな力を付けなければいけないのか、これは教員に対してよく言っていることです。そのため、就労まで切れ目なく支援していくという取組は大変素晴らしいと思います。しかし、行政の説明は一般の人やこどもたちには伝わりにくい、分かりにくいところがあるので、分かりやすく伝えることを心掛けてほしいと思いました。また、就労の支援というのは、社会に出て貢献していくということであり、そういった意味では、小学校や中学校におけるキャリア教育もそういった支援に含まれると思います。中学校では職場体験をしているし、小学校でも地域の人を招いて、働くことのやりがいなどを話していただいています。ただし、学校によって人員や予算などに限りがあり、取組の濃淡があるので、そういったところを支援する施策をしていただければよいと思いました。

(委員)

今、自分が就職活動する中で、やはり当事者は焦りを感じることも多いです。そうした中で、市が就労支援に積極的に取り組んでいくことは、就職活動をする学生の目線でも安心感があるし、ありがたいことであると感じますので、就労支援にしっかり取り組んでいただきたいと思っています。

(委員)

私の経営するお店でお客さんと話す中で、最近は転職を考える人が増えていていると感じます。理由としては、やりがいを感じないとか、給与面とか、そういったところがあげられています。傾向として就職する前に考える時間が少ないとそういったマッチングのミスが起きるのかなと思います。

7 閉会